

令和元年度 台東区立金曾木小学校授業改善推進プラン

第6学年【国語】

1. 実態の分析

- 観点別に見ると、書く能力、言語についての知識・理解・技能が東京都を下回っている。
- 特に正答率が低かったものは、資料から必要なことを読み取り報告する文章を書くことや、同音異義語が複数ある漢字の書き取りである。

2. 改善策

- 漢字などの言語知識を定着させるために、家庭学習で反復練習をさせたり、小テストで間違えたところを練習させたりするなどしていく。
- 行事作文や短作文に繰り返し取り組み、書くことへの抵抗をなくす。また自分の考えをまとめたり、文章を要約したりする力を付けられるようにする。
- 辞書を手元に置き、意味の分からない言葉を辞書で調べさせる。文章を書くときにも辞書を活用し、漢字を正しく使えるようにする。
- 「書く」単元で報告文、意見文など目的に合った書き方の指導をする。他教科を含め、学んだ書き方を使って文章を書く機会をもつ。

<改善策に対する検証>

- 学期末漢字のたしかめテストで、正答率 80%以上の児童を 8 割以上にする。
- 自分の力で自分の考えを書ける児童を 8 割以上にする。

第6学年【算数】

1. 実態の分析

- 正答数分布を比較すると、正答数が 9 問、10 問といった中央値付近に分布する児童が少なく、二極に分布していると言える。
- 領域、観点別、問題形式別に見ても、平均正答率はほぼ都と同等であるが、「数学的な考え方」が他の観点よりも低く、「記述式」がほかの問題形式よりも低い。記述による表現そのものに抵抗感のある児童がおり、無解答率も高い。
- 設問別に見ると、加法と乗法の混合した整数と小数の計算する設問で、都の平均を 12 ポイント下回っている。

2. 改善策

- 毎時間の授業の中で、学習したことを振り返る場を設定していく。単にノートに言葉でまとめるだけでなく、適用問題を解きながら振り返ったり、解決の過程を友達に説明しながら振り返ったりすることで、定着を図る。
- 習熟度別指導の中位クラスにおいても、問題解決の学習を十分に行っていく。自分の考えを説明する力が不十分な児童には、友達の説明を繰り返して言わせてみたり、適用問題において友達の考え方にあてはめて説明したりする活動を行っていく。
- 技能面においては、ドリル学習で苦手としている児童を把握して個別に補習し、確実な定着を図る。

<改善策に対する検証>

- 授業の自力解決場面において、既習事項を生かして自分の考えを書くことができる児童を 8 割以上にする。

令和元年度 台東区立金曾木小学校授業改善推進プラン

第6学年【理科】

1. 実態の分析

- 正答数分布を見てみると、中間層が少なく、台形状の推移をしている。
- 観点別に見てみると、「観察・実験の技能」において目標値を下回っている。
- 設問別に見てみると、顕微鏡の使い方を問う設問2問の正答率が6.8%、10.8%と極端に低い。

2. 改善策

- 単元の導入で話し合う場面や、実験について予想したり結果を考察したりする際に、既習の用語や概念を積極的に使わせたり、既習の論じ方を価値付けたりすることを通して、1つの単元の学習が終わっても、既習事項を活用する場面を作る。
 - 児童に問題意識をしっかりともたせた問題解決型の授業展開を行っていく。そのために、児童が問題意識をもてるような単元の導入や1単位時間の授業の導入を行う。また、児童の問題意識に対して、教師主導で実験を提供してしまうのではなく、児童が仮説を立て、実験を計画する時間を十分に確保する。
 - 授業内に、「サイエンス情報」という生活や社会で活用されている科学的情報を発表する場を設け、授業で学習したことが生かされていることに気付いたり、関心を広げたりできるようにする。
 - 実験をする際、器具を操作する児童がグループ内で固定されないよう、繰り返すなどの配慮をする。また、なぜそう操作するのかという操作の意味についても確認することで理解を図る。顕微鏡の操作の仕方については、用いる場面を捉えて、再度学び直しをする場面を設定する。
- <改善策に対する検証>
- 単元末ワークテストにおいて、達成率80%以上の児童を9割以上にする。

第6学年【社会】

1. 実態の分析

- 台東区学力調査では、基礎において校内平均正答率が目標値を下回った。
- 目標値の達成率は、区が70.2%に対して、校内は68.9%であった。下位層の底上げが必要である。
- 「工業生産」の領域のみ、校内平均正答率が目標値を下回っている。特に「自動車をつくる工業」の正答率が低い。
- 観点別では、社会的事象についての知識・理解の正答率が低い。特に「世界の中の国土」での、世界の大陸や国名、国旗などについての知識を問われる問題の正答率が低い。

2. 改善策

- 社会の授業中に積極的に地図帳を活用し、大陸、国名、地名、国旗など世界の国や日本の地域に触れる機会を増やす。
- 前年度までの社会の学習に関しては、復習プリントなどを活用し定着を図る。
- 資料集やインターネット、学校図書館を活用し、気になったことや知りたいことはすぐに調べる習慣を付けさせる。
- 適切な資料を提示したり、資料の提示の仕方を工夫したりするなどし、社会的事象に興味・関心をもてるような授業を展開する。

<改善策に対する検証>

- 単元末ワークテストにおいて、達成率80%以上の児童を9割以上にする。